

# 目 次

(各項目が該当ページへのリンクとなっています。)

## 病害虫防除指針

### 6. 果樹類の部

(1) 果樹類	125
(2) 落葉果樹	127
(3) りんご	128
(4) なし	136
(5) もも類	143
(6) もも	144
(7) ネクタリン	146
(8) ぶどう	151
(9) 小粒核果類	156
(10) うめ	160
(11) すもも	164
(12) かき	168
(13) くり	171
(14) おうとう	173
(15) キウイフルーツ	177
(16) ベリー類／ブルーベリー	180
(17) いちじく	182

## 果樹類一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						サビダニ類	ハダニ類
1	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	○

## 果樹類一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ハマキムシ類	ケムシ類
1	ゼンターリ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	○	-
2	デルフィン顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	○	○

## 果樹類(りんご、かんきつを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ハマキムシ類	ケムシ類
1	チューンアップ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	○	○

## 果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、オリーブを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						カミキリムシ類	スカシバ類
1	ロビンフッド		普	フェンプロパトリン	3A	○	○

## 果樹類(かんきつを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						ハダニ類	アブラムシ類	うどんこ病
1	エコピタ液剤		普	還元澱粉糖化物	-	○	○	○

## 果樹類(なしを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						アブラムシ類
1	オレート液剤		普	オレイン酸ナトリウム	-	○

## 果樹類(りんごを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	アカリタッチ乳剤		普	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	-	○

## 果樹類(りんご、なしを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	フーモン		普	ポリグリセリン脂肪酸エステル	-	○

## 果樹類－落葉果樹－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						カイガラムシ類	ハダニ類	越冬病害虫	縮葉病
1	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	○	○	○

## 果樹類－落葉果樹(ぶどうを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						カイガラムシ類
1	機械油乳剤95		普	マシン油	-	○

## 果樹類－落葉果樹(なし、りんご、かき、もも)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						カイガラムシ	サビダニ	そのハダニ類及び越冬卵
1	機械油乳剤95		普	マシン油	-	○	○	○

果樹類-仁果類-りんご-殺菌剤

※農業の使用に際しては、必ず農業のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名・使用目的																		
					輪紋病	斑点落葉病	モニリア病	褐斑病	炭疽病	うどんこ病	すす点病	すす斑病	黒星病	黒点病	赤星病	灰色かび病	腐らん病	モニリア病(実腐れ)	白紋羽病	根頭がんしゅ病	赤衣病	紫紋羽病	摘花
1 ICボルドー412		普	銅	M1	○	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 アフェットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3 アリエッティC水和剤		普	1. キャプタン 2. ホセチル	M4、P7	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 アントラコール顆粒水和剤		普	プロピネブ	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
5 オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 オキシラン水和剤		普	1. キャプタン 2. 有機銅	M4、M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 オキシドー水和剤80		普	有機銅	M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8 オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
9 キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10 ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
11 スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12 ストライド顆粒水和剤		普	フルオルイミド	M11	-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
13 ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14 セルカディスDフロアブル		劇	1. ジチアノン 2. フルキサピロキサド	M9、7	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15 ダイパワー水和剤		普	1. イミノクタジン 2. キャプタン	M7、M4	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16 チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
17 テーク水和剤		普	1. シメコナゾール 2. マンゼブ	I:UN、 F:3.M3	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
18 デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19 ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20 トップジンMオイルペースト		普	チオファネートメチル	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
21 トップジンMペースト		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
22 トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	○	-	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-
23 トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
24 ナリアWDG		普	1. ビラクロストロピン 2. ポスカリド	11、7	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
25 パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26 パッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
27 パレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
28 ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29 フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
30 フランカッスプレー		普	ポリオキシシ	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
31 フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロピン	11	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
32 フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
33 ブローダ水和剤		普	1. マンゼブ 2. ミクロブタニル	M3、3	-	○	○	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34 フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-

## 果樹類－仁果類－りんご－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名・使用目的																			
						輪紋病	斑点落葉病	モニリア病	褐斑病	炭疽病	うどんこ病	すす点病	すす斑病	黒星病	黒点病	赤星病	灰色かび病	腐らん病	モニリア病(実腐れ)	白紋羽病	根頭がんしゅ病	赤衣病	紫紋羽病	摘花	
35	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	ペンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
38	ペンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
39	ポリオキシAL水和剤		普	ポリオキシシ	19	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
40	ユニックス顆粒水和剤47		普	シプロジニル	9	-	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	E:UN F:M2	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○

## 果樹類－仁果類－りんご(苗木)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						紫紋羽病	白紋羽病
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○
2	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○
3	ペンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○

果樹類-仁果類-りんご-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日: 2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																				
					カメムシ類	ギンモンハモグリガ	キンモンホソガ	シクイムシ類	ハマキムシ類	アブラムシ類	ハダニ類	ケムシ類	モモチヨツキリゾウムシ	リンゴワタムシ	カイガラムシ類	ナミハダニ	リンゴハダニ	ヨモギエダシヤク	モモシクイガ	リンゴサビダニ	クワコナカイガラムシ	ヒメボクトウ	ナシヒメシクイ	コナカイガラムシ類	カミキリムシ類
1 アカリタッチ乳剤		普	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 アタックオイル		普	マシン油	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 アディオンフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	○	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
6 ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプロール	28	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
8 エコマイト顆粒水和剤		普	スピロジクロフェン	23	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9 オマイト水和剤		普	BPPS	12C	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10 オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11 カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12 キラップフロアブル		普	エチプロール	2B	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
13 コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
14 コルト顆粒水和剤		普	ビリフルキナゾン	9B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15 コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
16 サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニプロール	28	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
17 スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
18 スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19 スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-
20 ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	-	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
21 ダニオーテフロアブル		普	アシノナピル	33	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22 ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
23 ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24 ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25 ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
26 デイアナWDG		普	スピネトラム	5	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
27 テツパン液剤	抑制	普	シクラニプロール	28	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
28 テルスターフロアブル	抑制	劇	ビフェントリン	3A	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-

\* りんごにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。



## 6-(3) りんご（果樹類、仁果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
斑点落葉病	<p><b>生育期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適用薬剤散布の開始時期を開花前とするとともに、開花直前から落花直後の散布間隔が15日以上開かないようにする。</li> <li>2. 本病は高温多湿条件で多発する。</li> </ol> <p><b>落葉後</b></p> <p>被害落葉が一次伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の被害葉上と新梢に形成された病斑部で越冬し伝染源となる。4～5月頃に胞子が形成され、飛散して葉上に伝染し発病する。</li> <li>・キノドーフロアブル、ドキリンフロアブル、オキシラン水和剤は、サビ果発生防止のため、落花30日後以降に使用する。</li> <li>・ジカルボキシイミド系、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>・ストライド顆粒水和剤は、落花直後から落花30日後まで、また高温時に薬害を生じるおそれがあるため、9月以降の散布とする。</li> </ul>
黒星病	<p><b>生育期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開花直前から落花15日後頃が重点防除時期となる。</li> <li>2. 発芽10日後～5月下旬まで、適用薬剤の散布間隔をあげすぎないようにする。</li> <li>3. 被害枝、被害葉は見つけ次第つみ取って土中深くに埋める。</li> </ol> <p><b>落葉後</b></p> <p>前年の被害葉上で越冬し、春先の伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菌の発育は20℃位が良好で、比較的低温を好む。</li> <li>・主に葉、果実に発生し、葉での発病は落花期頃から10月初め頃までみられる。</li> <li>・DMI 剤、ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
黒点病	<p><b>生育期</b></p> <p>落花10日～30日後が重点防除時期である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つがる、あかぎ、紅玉、新世界、ぐんま名月で発病しやすいので注意する。</li> </ul>
赤星病	<p><b>生育期</b></p> <p>開花直前～落花20日後が重点防除時期である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園地の近隣に中間宿主となるビャクシン類を植えないようにする。</li> </ul>
褐斑病	<p><b>生育期（6～8月）</b></p> <p>6月下旬頃から発病し、8～9月頃に多発する。7月上旬～下旬が重点防除時期である。</p> <p><b>落葉後</b></p> <p>被害落葉が一次伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害落葉から伝染し、葉の病斑上に形成された分生子から、雨水によって二次伝染する。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>・パスポート顆粒水和剤は、サビ果発生防止のため、落花30日後以降に使用する。</li> </ul>
炭疽病	<p><b>生育期（6～8月）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 梅雨期（6～7月）が重要防除時期となる。</li> <li>2. 園内の風通しを良くし、二次伝染源となる被害果は見つけしだい摘み取って処分する。</li> <li>3. 多発園では袋掛けを行い、被害果を処分する。</li> </ol> <p><b>落葉後</b></p> <p>被害落葉が一次伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄生植物に形成された分生胞子が雨水の飛沫によって伝染し、高温多湿条件で多発する。</li> <li>・果実上の胞子は、数時間で発芽し、24時間程度濡れた状態が続くと侵入、感染する。</li> <li>・付近にニセアカシアやイタチハギ、クルマミ類があると発病が多く、陽光、新世界、紅鶴、紅玉、王林等で感染しやすい。</li> <li>・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
輪紋病 (いぼ皮病)	<b>休眠期</b> イボを削り取り、登録のある薬剤で傷口を保護する。イボの多い枝は切り取り処分する。  <b>生育期(6~8月)</b> 1. 梅雨期(6~7月)が重要防除時期となる。 2. 樹勢が弱い場合や、移植した場合に発病が多くなるので、樹勢の回復に努める。 3. 被害果は見つけ次第、摘み取って処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨の多い年に発病が多いので注意する。</li> <li>・ベルコート水和剤、ベルコートフロアブルはサビ果発生防止のため、落花40日後以降に使用する。また、使用に当たっては蚕毒期間が長いので注意する。</li> <li>・QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
疫病 (果実)	<b>生育期(4~9月)</b> 土壌管理は草生栽培または敷ワラをして土砂のはねかえりを防ぐ。草生栽培は草が繁茂しないうちに草刈りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原菌は土壌中で越冬し、4月以降の雨水により伝染する。</li> <li>・降雨の多い6月中旬に多発する。</li> </ul>
クラウンロット (わい性台木)	<b>生育期(4~9月)</b> 低湿地に発生が多いので、多発地では暗きょ排水等を行い水分管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わい化栽培において樹幹地際部に発病する。</li> </ul>
銀葉病	<b>休眠期</b> 1. 被害枝は見つけ次第剪除する。 2. 適用薬剤で傷口を保護する。 3. 衰弱の甚だしい時は伐採抜根する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風などで幹、太枝が裂けたら早急に傷口を保護する。</li> </ul>
腐らん病	<b>休眠期</b> 1. 被害部は削り取り、適用薬剤で傷口を保護する。 2. 凍害、日焼けを防止する。  <b>生育期</b> 高接更新による太枝の切り口には塗布剤を塗って保護し、太枝の日焼けを防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害部は外観上健全に見える部分まで削り取る。また、被害を受けた細枝は剪除する。</li> <li>・定期的な薬剤散布においても、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
赤衣病	<b>休眠期</b> 1. 被害部は削り取り、適用薬剤で傷口を保護する。 2. 凍害、日焼けを防止する。  <b>生育期</b> 高接更新による太枝の切り口には塗布剤を塗って保護し、太枝の日焼けを防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害部は外観上健全に見える部分まで削り取る。また、被害を受けた細枝は剪除する。</li> <li>・定期的な薬剤散布においても、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。</li> <li>・抗生物質剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
高接病	1. 無病の穂木を使用する。 2. 罹病を認めた時は中間台から自根を出させるか、抵抗性のリンゴ実生苗を植え付け寄せ接ぎを行う。 3. 高接ぎをしようとする穂木がウイルスを保毒しているか不明の場合は、マルバカイドウ台以外のものに高接ぎをする。 4. 衰弱の甚だしい時は改植する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルスにより発病し、接ぎ木によって伝染する。</li> <li>・マルバカイドウはGLSVに、ミツバカイドウはSPVに感受性である。</li> </ul>
奇形果病	伐採抜根する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接ぎ木伝染するため、無毒樹から採穂する。</li> </ul>

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農業を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
シンクイムシ類	<b>生育期（5月中旬～9月上旬）</b> 1. 発生消長に注意し、殺卵やふ化直後の幼虫の食乳防止を重点にした防除を徹底する。 2. 被害果は見つけ次第処分する。 3. モモシンクイガは、7月中下旬と8月中下旬が重点防除時期である。多発園では6月上中旬までに袋掛けを行う。 4. ナシヒメシンクイの第一世代は新梢に心折れ被害を及ぼすため、見つけ次第処分する。 5. スモモヒメシンクイは、リンゴ園地への飛来が多くなる7月下旬～9月上旬が重点防除時期である。スモモ園地と隣接するほ場で飛来が多く、陽光が被害を受けやすいため注意する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。</li> <li>オリオン水和剤40は、落花30日後まで落果のおそれがあるので使用しない。</li> </ul>
ハマキムシ類	<b>生育期（発芽～展葉期頃、6月中旬～8月上旬、9月上旬）</b> 発生期に防除を行う。 <b>剪定時</b> 越冬卵を除去する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コカクモンハマキ、トビハマキ、モンハマキ、シロハマキは幼虫で越冬し、年間2～4回発生する。</li> <li>カクモンハマキ、ミダレカクモンハマキは卵態で越冬し、年1回発生する。</li> <li>有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。</li> </ul>
ギンモンハモグリガ	<b>生育期（5月下旬～10月上旬）</b> 軟らかい葉に産卵するので夏場以降、枝の徒長を抑えるような栽培管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月上旬頃から越冬幼虫が動き始め、年間5回発生する。</li> <li>有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。</li> <li>オリオン水和剤40は、落花30日後まで落果のおそれがあるので使用しない。</li> </ul>
キンモンホソガ	<b>休眠期</b> 被害葉中で越冬するので、落葉を集めて処分する。 <b>生育期（3月下旬～5月上旬、5月下旬～10月上旬）</b> 発生消長に注意し、ふ化後幼虫の食入防止に重点を置いた防除を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月下旬頃から成虫が羽化し始め、年間5～6回発生する。</li> <li>オリオン水和剤40は、落花30日後まで落果のおそれがあるので使用しない。</li> </ul>
コウモリガ	<b>生育期（6～9月）</b> 根元周辺を除草し、敷きワラ等は根元まで敷かないようにして発見しやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫の食入は6月～7月中旬が最も多い。</li> </ul>
モモチョッキリゾウムシ	<b>生育期（開花直前～落花直後）</b> 被害果は集めて水漬けするか土中深く埋める。	
リンゴワタムシ	<b>生育期（落花期～10月）</b> 1. 落花期から7月が重点防除時期である。 2. 9月以降に発生した場合は、適用薬剤を使用する。 <b>休眠期</b> 薬剤のかかりづらい主幹から発生した徒長枝や主幹付近のせん定痕等への寄生が多いため、薬剤の通り良い樹形づくりを心がける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹間空洞部や根部で越冬し、5月上旬に加害部に移動する。</li> <li>ワタムシヤドリコバチなどの天敵は6月から8月にかけて盛んに活動する。</li> <li>綿状の分泌物で覆われているため薬剤がかかりにくい。定期的な薬剤散布においても、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。</li> <li>有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。</li> </ul>

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農業を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
りんごハダニ	<b>生育期（6月下旬～8月下旬）</b> 1. ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。 2. 徒長枝の剪除をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご樹上において卵で越冬し、4月下旬～5月上旬にふ化して加害する。</li> <li>・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。</li> <li>・オマイト水和剤は、曇天多雨時には薬害のおそれがあるため、8月以降に使用する。</li> <li>・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。</li> <li>・ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用および近接散布では防除効果が低下するおそれがあるため使用は避ける。また、本剤散布後に銅剤を散布する場合には10日以上の間隔を空ける。銅剤散布後は使用を避ける。</li> </ul> ※ハダニ類の防除対策の項参照
ナミハダニ	<b>生育期（7月上旬～8月下旬）</b> 1. ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。 2. 下草は付きにくい草種（イネ科など）を選定するか、樹冠下はマルチを行う。または、殺ダニ剤散布1～2日前に草刈りをすると効果が高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オレンジ色の雌成虫がりんご樹上や下草で越冬し、3月頃には越冬場所から移動を始める。</li> <li>・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。</li> <li>・オマイト水和剤は、曇天多雨時には薬害のおそれがあるため、8月以降に使用する。</li> <li>・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。</li> <li>・ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用および近接散布では防除効果が低下するおそれがあるため使用は避ける。また、本剤散布後に銅剤を散布する場合には10日以上の間隔を空ける。銅剤散布後は使用を避ける。</li> </ul> ※ハダニ類の防除対策の項参照
カメムシ類	<b>生育期（幼果期～9月）</b> 1. カメムシ類は園外から飛来し、発生状況は年次差が大きいので、発生予察情報を参考に薬剤防除を行う。 2. カメムシ類は集合フェロモンにより同種を誘引する習性があるため、園への飛来を確認したら早めの防除を行う。 3. カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。7月頃から第1世代成虫が出現し、県内では年1回の発生である。</li> <li>・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶がカメムシの発生量や果樹の被害量に大きな影響を与える。</li> <li>・有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。</li> </ul> ※果樹カメムシ類の防除対策の項参照
野うさぎ、野そ	<b>根雪前</b> 金網を巻いて樹幹を保護する。	(野その部参照)

## 果樹類－仁果類－なし－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名												
					黒星病	黒斑病	輪紋病	うどんこ病	炭疽病	赤星病	疫病	褐色斑点病	心腐れ症(胴枯病菌)	胴枯病	腐らん病	白紋羽病	
1	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アリエッティC水和剤		普	1. キャプタン 2. ホセチル	M4、P7	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アントラコール顆粒水和剤		普	プロピネブ	M3	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
4	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
5	オーシャイン水和剤		普	オキシボコナゾールフマル酸塩	3	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
6	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
7	オキシラン水和剤		普	1. キャプタン 2. 有機銅	M4、M1	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-
8	オキシンドー水和剤80		普	有機銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-
10	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
11	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
12	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-
13	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-
14	ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	トップジンMペースト		普	チオファネートメチル	1	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-
16	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○
17	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
18	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-
19	ナリアWDG		普	1.ピラクrostロビン 2.ボスカリド	11、7	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
20	パッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
21	バレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
22	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	○	-	○	-	-	○	○	-	-	-
23	フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
24	フルーツセイバー		普	ベンチオピラド	7	○	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-
25	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
26	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
27	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
28	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-
29	ポリオキシンAL水和剤		普	ポリオキシン	19	-	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-
30	ミギワ20フロアブル		普	イブフルフェノキン	2	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
31	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 果樹類－仁果類－なし(苗木)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名	
					白紋羽病	
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○



果樹類－仁果類－なし－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																			
					アブラムシ類	カメムシ類	シメツクイムシ類	ハダニ類	コナカイガラムシ類	ハマキムシ類	アブラゼミ	ナシチビガ	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	ヒメボクトウ	ケムシ類	ニセナシサビダニ	カンザワハダニ	ナミハダニ	クワコナカイガラムシ	カミキリムシ類			
27 ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28 ハーベストオイル		普	マシン油		-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
29 ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	1:21A、F:39	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
30 バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31 フェニックスフロアブル		普	フルベンジアミド	28	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
32 マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33 モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34 モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
35 ロディー水和剤	抑制	劇	フェンプロバトリン	3A	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36 ロビンフッド	抑制	普	フェンプロバトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○

果樹類－仁果類－日本なし－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名				
					アブラムシ類	コナカイガラムシ類若齢幼虫	ナシグンバイ	ハマキムシ類	シメツクイムシ類
1 ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	○	○	○	○

果樹類－仁果類－なし－殺虫殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名			
					黒星病	黒斑病	ハダニ類	クワコナカイガラムシ
1 アルタベールフロアブル		普	1. マシン油 2. 有機銅	F:NC、M1	○	○	○	○

## 6-(4) なし（果樹類、仁果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒星病	<p><b>休眠期</b> 薬剤により休眠期防除を行う。</p> <p><b>生育期</b> 1. 罹病した花そう、葉、幼果を早期に除去し、処分する。 2. 開花直前に薬剤を散布し、孢子形成を抑える。 3. 交配期間中に長雨が続く時は薬剤を散布する。</p> <p><b>収穫直後(9月下旬~10月)</b> 発生が多い園では、越冬伝染源を減らすため収穫直後に必ず防除を行う。</p> <p><b>落葉後(11月下旬~2月下旬)</b> 被害落葉が一次伝染源となるので、発生園では落葉を集めて埋めるか又は粉碎等の処理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>石灰硫黄合剤は、強アルカリ性なので取り扱いに注意する。</li> <li>芽基部のりん片でも越冬し、翌春孢子をつくり伝染する。</li> <li>DMI 剤、ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
黒斑病	<p><b>休眠期</b> 薬剤により休眠期防除を行う。</p> <p><b>3月下旬~9月上旬</b> 1. 罹病果を除去し、罹病落果実を処分する。 2. 二重袋を掛ける。 3. 小袋掛けは薬剤散布後直ちに行う。 4. 薬剤散布を行う。</p> <p><b>落葉後</b> 落葉処理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボケ芽や枝の病斑で越冬し、10~12℃になると翌春病斑表面に分生子をつくり、15℃以上になると侵入する。</li> <li>4、5月における分生子の飛散は平均温度 18℃以上の小雨条件で多くなる。</li> <li>ストロビードライフロアブルは、開花~落花 30日（養分転換期）での散布は薬害が発生するので、6月以降に使用する。</li> <li>ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
輪紋病	<p><b>休眠期</b> 1. イボの削り取りやイボの多い枝は切り取り処分し、殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。 2. 粗皮削りを行ってから、薬剤を散布する。</p> <p><b>5月中旬~8月上旬</b> 梅雨時期より柄胞子が雨水とともに飛散し、果実には果点を通じて感染が起こるので定期的な薬剤散布を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春に感染した枝がイボをつくり柄子殻を形成し、越冬する。</li> <li>ストロビードライフロアブルは、開花~落花 30日（養分転換期）での散布は薬害が発生するので、6月以降に使用する。</li> <li>アミスター10フロアブルは、幸水、新高、二十世紀や樹勢の弱い樹に散布すると薬害が発生するので注意する。</li> <li>ベンゾイミダゾール系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
胴枯病	<p><b>休眠期</b> 罹病枝、病患部削取りを行い殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。</p> <p><b>生育期</b> 1. 園の排水を行い、樹を健全に育てる。 2. 窒素肥料の過用、着果過多を避ける。 3. 罹病枝の切り取りは、罹病部の 20~30cm 下から行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>夏期の太枝の切除で菌が侵入しやすくなる。</li> </ul>

病害虫名	防除方法	参考事項
疫 病	<b>4~7月</b> 1. 土壌管理は、草生栽培または敷ワラをして土砂のはね返りを防ぐ。 2. 罹病枝は、切り取り処分する。 3. 発病初期に薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>病原菌は土壌中で越冬し、4月以降雨水によって伝染する。</li> <li>全品種に発病するが、特に新水、幸水に発病が多い。</li> <li>若木に発病が多い。樹幹、枝、葉、果実に発生する。</li> </ul>
赤 星 病	<b>3月中旬~5月上旬</b> 降雨時に感染し易いので、薬剤散布は降雨直前または直後に行い、小雨の場合は雨中でも散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本菌は、中間宿主であるビャクシン、イブキ類の枝梢上で越冬し、4月中旬に形成された小生子が風雨により葉に達し、発芽侵入する。</li> <li>4月中旬に降雨がないときは小生子の飛散はないが、その後の雨によって発病することがあるので注意する。</li> <li>DMI剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
うどんこ病	<b>休眠期</b> 1. 落葉を適切に処理する。 2. 剪定枝を園内に放置せず、園外に持出し埋める。 <b>5月下旬、7月上旬~下旬</b> 発病初期に薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉裏に不明瞭な円形の白色粉状病斑を形成する。</li> <li>7月中下旬から秋にかけて蔓延し、とくに乾燥の年には多発し、果実肥大を妨げや早期落葉の原因となる。</li> <li>QoI剤、ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
えそ斑点病	1. ウイルスは穂木から感染するので、健全な母樹から穂木を採取する。 2. 発病樹は植え替えるか、または無病微品種に更新する。 3. 高接ぎ更新時の被害を回避するには、無毒樹に無毒穂木を接ぎ木する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本病は古い葉に発病し、病斑は角形で大きさも斉一である。また、多発病葉は早期落葉する。</li> <li>病徴の発現する品種 二十世紀、新高、八雲、おさ二十世紀、新雪、新星、南水</li> <li>無病微保毒品種 幸水、豊水、あきづき、筑水、長寿、八里</li> </ul>
紅粒がんしゅ病	<b>休眠期</b> 罹病枝、病患部削取りを行い殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。 <b>8月下旬~9月</b> 被害枝は、剪除し処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本菌は多犯性で、ナラ、ケヤキなどの多くの広葉樹に寄生する。</li> <li>剪定の切口や、凍寒害による損傷部などから感染する。</li> </ul>
萎 縮 病	1. 症状が進むと園内に子実体（糸状菌）が発生し、これが重大な伝染源となるので早めに除去する。 2. 症状が部分的発生である場合は、腐朽部を削り取り傷口の癒合促進のため、殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。傷口がふさがるまで毎年塗布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>症状は正常な樹より萌芽が遅れ、葉が萎縮、波打ちあるいは小型化し、葉緑が黒変する。</li> <li>果実は、小玉果または奇形果となる。</li> </ul>
炭 疽 病	<b>休眠期</b> 1. 落葉を適切に処理する。 2. 剪定枝を園内に放置せず、園外に持出し埋める。 <b>5月~7月中旬</b> 薬剤散布をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害落葉、花芽で越冬し伝染源となる。</li> <li>6~7月に曇雨天が続くと多発する。</li> <li>7月中旬頃から発生が確認され、早期落葉の原因となる。</li> <li>QoI剤系の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>病徴の発現する品種 なつしづく、豊水、新高、二十世紀</li> </ul>
白 紋 羽 病	・病患部の除去、薬剤の灌注などの処理は休眠期に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度土壌中に病原菌が侵入すると長期間発病の機会がある。</li> <li>予防が最も大切であるため、発病している、疑わしいものは植えない。</li> <li>病原菌の生息している圃場では、植穴に粗大有機物を入れない。</li> <li>樹体に負担のかかる着果過多、強剪定は行わない。</li> </ul>

病害虫名	防除方法	参考事項
シンクイムシ類 (ナシヒメシンクイ)	<b>休眠期</b> 1. 粗皮削りを行う。 2. バンド誘殺を行う。 <b>5月上旬～9月上旬</b> 1. 被害果の摘み取り処分を行う。 2. 交信攪乱剤を設置する。 3. 薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1世代幼虫は核果類の新梢に食入し、その後にナシの果実に被害を及ぼす。</li> <li>・7月下旬～8月下旬に果実の被害が多くなる。</li> </ul>
クワコナカイガラムシ	<b>休眠期(3月上旬)</b> 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 <b>5月上旬～7月下旬</b> 5月上旬～7月下旬までふ化するので、この時期に重点的に防除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クワコナカイガラムシは、卵態で越冬し年2～3回発生する。(5月中旬、7月上旬、10月中旬)</li> <li>・暗いところを好むため有袋栽培に被害が多い。</li> </ul>
ナシマルカイガラムシ	<b>休眠期(3月上旬)</b> 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 <b>5月上旬～9月下旬</b> 5月中旬頃から成虫になり、胎生で繁殖するので、この時期に重点的に防除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナシマルカイガラムシは、1齢幼虫で越冬し年3回(5月中旬、7月中旬、9月中旬)発生する。</li> <li>・冬期のマシン油乳剤の散布は効果が高い。</li> </ul>
ニセナシサビダニ	<b>休眠期</b> 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 <b>生育期</b> 被害症状が確認された場合、ただちに薬剤防除を行う。徒長枝の先端に多く潜伏しているため、薬剤がそれらにかかるように防除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛茸の多い葉や枝に寄生するため、徒長枝などの新梢に多く潜伏している。</li> <li>・若い葉から葉へ移動しながら、6月下旬～7月中旬に増殖のピークとなる。</li> </ul>

病害虫名	防除方法	参考事項
ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ、リンゴハダニ)	<b>休眠期</b> 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 <b>5月上旬~9月下旬</b> 1. ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、気温の上昇に伴い増殖が速くなるので、発生初期からの防除を徹底する。 2. ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は、速やかに防除する。 3. 下草処理を行う場合は殺ダニ剤を散布する前とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中旬の高温時に、ナミハダニが発生することがある。</li> <li>・7月~8月に干ばつが続くとナミハダニ、カンザワハダニが特に激発する。</li> <li>・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。</li> <li>・ダニゲッターフロアブルを新梢伸長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合は、以下の事項を守ることを。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①豊水、新高、長十郎には新葉に薬害を生じる恐れがあるので使用しない。</li> <li>②有機リン剤との同時散布及び10日以内の近接散布は、新葉に薬害を生じる恐れがあるので避ける。</li> </ul> </li> <li>・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。</li> <li>・マイトコーネフロアブルは、6月以前の散布や高温乾燥時に散布すると、葉縁の波打ちや、果そう葉の黄化や落葉が発生する恐れがある。</li> <li>・天敵製剤を利用する場合は、天敵への影響を考慮した薬剤を使用する。</li> <li>・ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用および近接散布では防除効果が低下するおそれがあるため使用の際は以下の事項を守ることを。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①銅剤との混用は避ける。</li> <li>②本剤散布後に銅剤を散布する場合には10日以上散布間隔を空ける。</li> <li>③銅剤散布後は本剤の使用は避ける。</li> </ul> </li> </ul> ※ハダニ類の防除対策の項参照
カメムシ類	<b>生育期(幼果期~9月)</b> 1. カメムシ類は園外から飛来し、発生状況は年次差が大きいので、発生予察情報を参考に薬剤防除を行う。 2. カメムシ類は集合フェロモンにより同種を誘引する習性があるため、園への飛来を確認したら早めの防除を行う。 3. カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。7月頃から第1世代成虫が出現し、県内では年1回の発生である。</li> <li>・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶がカメムシの発生量や果樹の被害量に大きな影響を与える。</li> </ul> ※果樹カメムシ類の防除対策の項参照

## 果樹類－核果類－もも類－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機 構分類	病虫害雑草名		
						灰 星 病	黒 星 病	う ど ん こ 病
1	ネクスターフロアブル		普	イソピラザム	7	○	○	○

## 果樹類－核果類－もも類－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機 構分類	病虫害雑草名	
						ク ビ ア カ ツ ヤ カ ミ キ リ	ケ ム シ 類
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	○	○

果樹類-核果類-もも類-もも-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機 構分類	病害虫雑草名・使用目的												
					せん孔細菌病	縮葉病	ホモフシス腐敗病	灰星病	黒星病	うどんこ病	炭疽病	枝折病	果実赤点病	白紋羽病	胴枯病	傷口のゆ合促進	
1 ICボルドー412		普	銅	M1	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 アグリマイシン100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 アグレプト水和剤		普	ストレプトマイシン	25	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
6 インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
7 オーシャイン水和剤		普	オキサボコナゾールフ マル酸塩	3	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8 オキシラン水和剤		普	1.キャプタン 2.有機銅	M4、M1	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9 オキシンドー水和剤80		普	有機銅	M1	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10 オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
11 カスミンボルドー		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12 クプロシールド		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13 スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14 スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15 ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
16 ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
17 チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
18 デランフロアブル		劇	ジチアノ	M9	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
19 トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
20 トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
21 トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
22 ナリアWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ボスカリド	11、7	-	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-
23 パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-
24 パッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
25 バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26 バレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
27 ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
28 フジワン粒剤		普	インプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
29 フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロビン	11	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
30 フルーツセイバー		普	ベンチオピラド	7	-	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-
31 フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-
32 ベルクートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
33 ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
34 マイコシールド		普	オキシテトラサイクリン	41	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35 ロブラール水和剤		普	イブロジオン	2	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36 石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	EUN F:M2	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○

果樹類-核果類-もも類-もも(苗木)-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
					白紋羽病
1 トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○

果樹類-核果類-もも類-もも-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																	
					アザミウマ類	アブラムシ類	カメムシ類	シンクイムシ類	ハダニ類	モモハモグリガ	ミカンキイロアザミウマ	ケムシ類	ハマキムシ類	カイガラムシ類	コスカシバ	スカシバ類	モモサビダニ	ウメシロカイガラムシ	カンザワハダニ	ナミハダニ	クビアカツヤカミキリ	カミキリムシ類
1 アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	-	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
2 アグロスリン水和剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
3 アディオフロアブル	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 ウララDF		普	フロニカミド	29	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプロール	28	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8 オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
9 ガットサイドS		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
10 カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
11 コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-
12 コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13 コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
14 サムコフロアブル10	抑制	普	クロラントラニプロール	28	-	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
15 スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16 スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	-	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17 ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	-	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18 ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
19 ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20 ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
21 ティパン液剤	抑制	普	シクラニプロール	28	-	-	○	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-
22 ディアナWDG		普	スピネトラム	5	○	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23 テルスターフロアブル	抑制	劇	ピフェントリン	3A	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24 トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロ	4C	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25 バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26 フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27 マイトコーネフロアブル		普	ピフェナゼート	20D	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
28 モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	○	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-
29 モベントフロアブル		普	スピロテトラト	23	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30 ロビンフッド		普	フェンプロパトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○

\*ももにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意：(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

## 果樹類－核果類－もも類－ネクタリン－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						せん孔細菌病	縮葉病	灰星病	黒星病	ホモブシス腐敗病	縮葉病(休眠期)	うどんこ病
1	ICボルドー412		普	銅	M1	○	○	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
3	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	-	○	○	-	-	-
4	イオウフロアブル		普	硫黄	IUN F:M2	-	-	-	○	-	-	-
5	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	-	○	○	-	-	-
6	オーシャイン水和剤		普	オキシボコナゾール フマル酸塩	3	-	-	○	○	○	-	-
7	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	-	○	○	○	-	○
8	クプロシールド		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
9	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	-	○	○	-	-	-
10	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	○	-	-	-	-	-	-
11	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	○	○	-	○	○
12	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	○	○	-	-	-
13	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○	○	-	-	-
14	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	○	○	○	-	-
15	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○	○	-	-	-
16	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	-	-	○	○	○	-	○
17	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	-	○	○	○	-	○
18	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	-	-	○	○	-	-	○
19	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	-	○	○	○	-	-
20	マイコシールド		普	オキシテトラサイクリン	41	○	-	-	-	-	-	-
21	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	-	○	-	-

果樹類-核果類-もも類-ネクタリン-殺虫剤

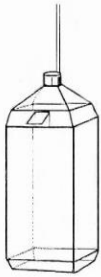
※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																	
						カメムシ類	シンクイムシ類	ハダニ類	モモアカアブラムシ	アブラムシ類	モモハモグリガ	カイガラムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ	モモサビダニ	ミカンキイロアザミウマ	カンザワハダニ	ナミハダニ	クワコナカイガラムシ若齢幼虫	アザミウマ類	ケムシ類		
1	アタックオイル		普	マシン油		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アブロードエースフロアブル		普	1.フェンピロキシメート 2.プロフェジシ	21A、16	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプロロール	28	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
8	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
9	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
10	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-
11	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニプロロール	28	-	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
15	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
16	ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
18	テツパン液剤	抑制	普	シクラニプロロール	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
19	テルスターフロアブル	抑制	劇	ピフェントリン	3A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	ハーベストオイル		普	マシン油		-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
23	マイトコーネフロアブル		普	ピフェナゼート	20D	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
25	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\* ネクタリンにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意：(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。)

6-(6・7) もも・ネクタリン (果樹類、核果類、もも類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
黒星病	<b>休眠期</b> 罹病枝を切り取り処分する。 <b>発芽前</b> 発芽前までに十分防除を行う。 <b>生育期</b> 重点防除時期は4月下旬～6月中旬である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枝上病斑の孢子形成は4月中旬頃から認められ、6月上旬～7月中旬の間が最も多く雨水に混じって伝染する。</li> <li>・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
炭疽病	<b>休眠期</b> 罹病枝を切り取り処分する。 <b>落花後～5月下旬</b> 重点防除時期は4月中旬～5月末頃である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原菌の伝染は黒星病に準ずる。</li> <li>・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
縮葉病	<b>収穫後(秋期)～発芽前</b> 発芽前までに十分防除を行う。 <b>生育期</b> 罹病葉、罹病果は白粉(子のう孢子)が生じる前に取り除き処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病原菌の孢子はりん片がゆるむ頃、降雨と温度があると活動しはじめ、展葉したばかりの葉の裏面から侵入し発病する。</li> </ul>
灰星病	<b>生育期(開花直前～収穫期)</b> 1. 開花期間中および成熟期(収穫前20日)間の防除を行う。 2. 樹上のミイラ果は取り除き処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灰星病菌は、樹上の被害果や被害枝などが越冬源となって気温の上昇と降雨によって分生孢子を形成し、開花中の花に侵入して花腐れを生じる。</li> <li>・発病は梅雨期に収穫される早生種に多い。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系、ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
せん孔細菌病	<b>収穫後(秋期)</b> 十分防除を行う。 <b>休眠期</b> 1. 罹病枝(スプリングキャンカーのある枝)を切り取り処分する。 2. 風当たりの強い園は、風傷が生じないよう防風ネットや防風垣を設ける。 <b>生育期</b> 1. 罹病枝(サマーキャンカーのある枝)を切り取り処分する。 2. 早めの袋掛けが有効である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IC ボルドー412の使用は、収穫後(9月中旬)から開花期である。</li> <li>・抗生物質剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
いぼ皮病	<b>休眠期</b> 1. 無病苗を栽植する。 2. 発病した細枝は切除し処分する。 3. 被害部を削り取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春から秋まで降雨ごとに柄孢子が飛散して伝染する。</li> </ul>
カイガラムシ類	<b>生育期</b> 幼虫ふ化期の5～7月に防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹勢の弱い樹は、休眠期に機械油乳剤95(落葉果樹)の代わりに石灰硫黄合剤(落葉果樹)を散布する。</li> </ul>

病害虫名	防除方法	参考事項
アブラムシ類	<b>生育期</b> 萌芽期の防除を重点とする。	・モモアカアブラムシは早くから発生し、若い葉を萎縮させ、モモコフキアブラムシは新しい葉の裏に寄生する。
モモハモグリガ	<b>休眠期</b> 落葉処理など園内を清掃して越冬場所をなくす。 <b>落花直後～8月</b> 初期防除の効果が高いので、越冬世代の発生消長を把握して防除する。	・ジアミド系の薬剤を連用すると、抵抗性が出現する恐れがあるので注意する。
シンクイムシ類	<b>5月下旬～6月、7月下旬～8月中旬</b> 1. 心折れ被害枝を除去する。 2. 被害果を処分する。 3. 有袋栽培を行う。	・老熟幼虫で粗皮の割れ目や、取り残しの袋の中などで繭をつくり越冬する。
ハダニ類	<b>生育期</b> ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。	・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 ・7～8月に干ばつが続くと、ナミハダニ、カンザワハダニ、モモサビダニが特に激発する。 ・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。 ※ハダニ類の防除対策の項参照
コスカシバ	<b>収穫後～発芽前（幼虫食入期）</b> 食入幼虫の捕殺に努める。 <b>生育期～収穫後</b> 5～9月の他害虫防除時に樹幹部にも丁寧に散布するようにする。	・幼虫捕殺後、切り口及び傷口の癒合促進剤を塗布する。 ・成虫の発生の多い時期は8～9月である。 ・樹勢が弱ってくると被害を受けやすくなる。 ・薬剤散布は秋季防除の効果が高い。
カメムシ類	<b>生育期</b> 1. カメムシ類は園外から飛来し、発生状況は年次差が大きいので、発生予察情報を参考に薬剤防除を行う。 2. カメムシ類は集合フェロモンにより同種を誘引する習性があるため、園への飛来を確認したら早めの防除を行う。 3. カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。	・カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。7月頃から第1世代成虫が出現し、県内では年1回の発生である。 ・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶がカメムシの発生量や果樹の被害量に大きな影響を与える。 ※果樹カメムシ類の防除対策の項参照
ヤガ類 ハチ類	1. ヤガは夜間、園をまわって成虫を捕殺する。 2. 飛来の多いモモ園では防蛾網を張る。 3. ヤガ、ハチの捕獲法 あらかじめ1リットル入り空き牛乳パックまたはペットボトルの上部に、1片が5cm四方の穴を二方にあける。これに混和液（清酒1.8リットル、酢600ミリリットル、砂糖150g）または果実のさく汁40～50ミリリットルを注入し、1a当たり1個の割合で枝につるし、毎朝巡回して捕獲処分する。なお、この液は7日毎に新しいものと交換する。	「ヤガ・ハチ」捕獲用パック 

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
クビアカツヤ カミキリ	<b>5月中旬～10月下旬</b> 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。 <b>6月上旬～8月上旬</b> 成虫を発見したら捕殺する。 農薬散布は樹幹部に丁寧に散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）前にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。</li> <li>・アクセルフロアブルの樹幹散布は、果実に飛散しないようにする。</li> </ul> ※クビアカツヤカミキリの防除対策の項参照

果樹類-ベリー類等の小粒果実類-ぶどう-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名											
						べと病	晩腐病	さび病	褐斑病	うどんこ病	灰色かび病	黒とう病	枝膨病	芽枯病	つる割病	白紋羽病	ブドウハモグリダニ
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アフエットフロアブル		普	ベンチオピラド	7	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
4	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-
5	アリエッティC水和剤		普	1. キャブタン 2. ホセチル	M4、P7	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
6	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-
7	オーシャイン水和剤		普	オキシポコナゾールフマル酸塩	3	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-
8	オーソサイド水和剤80		普	キャブタン	M4	○	○	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-
9	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
10	クムラス		普	硫黄	UN、M2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
11	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
12	ジマンダイセンフロアブル		普	マンゼブ	M3	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
13	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
14	ジャストフィットフロアブル		普	1.フルオピコリド 2.ベンチアバリカルブイソプロピル	9、12	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	スイッチ顆粒水和剤		普	1.シプロロジニル 2.フルジオクソニル	9、12	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
16	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-
17	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-
18	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-
19	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
20	パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
21	パスワード顆粒水和剤		普	フェンヘキサミド	17	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
22	バレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
23	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
24	フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
25	フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロビン	11	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
26	フルーツセイバー		普	ベンチオピラド	7	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
27	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
28	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	-	-	-	○	○	○	-	-	○	-
29	ベトファイター顆粒水和剤		普	1.シモキサニル 2.ベンチアバリカルブイソプロピル	27、40	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\* アグレプト液剤は【植物成長調整剤】2 果樹類 に掲載

果樹類-ベリー類等の小粒果実類-ぶどう-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名											
						べと病	晩腐病	さび病	褐斑病	うどんこ病	灰色かび病	黒とう病	枝膨病	芽枯病	つる割病	白紋羽病	ブドウハモグリダニ
30	ベンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
31	ベンコゼブフロアブル		普	マンゼブ	M3	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
32	ベンレートT水和剤20		普	1. テウラム 2. ベノミル	M3、1	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
33	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-
34	ホライズンドライフロアブル		普	1. シモキサニル 2. ファモキサドン	27、11	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
35	ムッシュボルドーDF		普	銅	M1	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	ヨネポン水和剤		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	ライメイフロアブル		普	アミスルプロム	21	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
38	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
39	リドミルゴールドMZ		普	1. マンゼブ 2. メタラキシル及びメタラキシルM	M3、4	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40	レーバスフロアブル		普	マンジプロパミド	40	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41	硫酸銅		劇	硫酸銅	M1	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-

果樹類-ベリー類等の小粒果実類-大粒種ぶどう-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名		
						チャノキイロアザミウマ	フタテンヒメヨコバイ	コガネムシ類
1	アディオフロアブル	抑制	普	ベルメリン	3A	○	○	○

果樹類-ベリー類等の小粒果実類-ぶどう-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																	
						フタテンヒメヨコバイ	コナカイガラムシ類	チャノキイロアザミウマ	コガネムシ類	アザミウマ類	ブドウトラカミキリ	ブドウサビダニ	ハスモンヨトウ	モンキクロノメイガ	カイガラムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	ケムシ類	カメムシ類	コガネムシ類成虫	ブドウハモグリダニ		
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アルパリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
5	エクシレルSE	抑制	普	シアトラニリプロール	28	○	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
6	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	○	-	○	○	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○
7	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	コロマイト水和剤	抑制	普	ミルベメクテン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
9	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-
10	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
11	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
13	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
14	テツパン液剤	抑制	普	シクラニリプロール	28	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-
15	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
16	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-
18	マイトコーネフロアブル		普	ピフェナゼート	20D	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
19	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
20	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	-	-	○	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○

\* ぶどうにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

## 6-(8) ぶどう（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
晩腐病	<b>休眠期</b> 剪定時または3月中旬までに巻ヒゲを除去し、生育初期の感染防止をする。 <b>5~8月</b> 着色1ヶ月前頃に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽前防除が重要なので丁寧に散布する。</li> <li>・袋かけやカサかけを行う。</li> <li>・6月中旬から7月上旬の薬剤散布が重要である。</li> <li>・結果過多、窒素過多、密植園は多発しやすい。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
黒とう病	<b>休眠期</b> 剪定時または3月中旬までに病枝、巻ヒゲを除去し、生育初期の感染を防止する。 <b>生育期</b> 発芽前防除が特に重要なので丁寧に防除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月頃から発病し、5月~7月の低温多雨の天候や窒素過多による新梢の充実不良で発生しやすい。</li> <li>・欧州系品種（シャインマスカット等）は発病しやすい。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
うどんこ病	<b>休眠期</b> 剪定時に病斑のある枝は除去し処分する。 <b>生育期</b> 幼果期に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中旬から7月上旬の夜間に高温多湿が続くと多発する。</li> <li>・欧州系品種は発病しやすい。</li> </ul>
褐斑病	<b>休眠期</b> 粗皮削りと落葉処理を行う。 <b>生育期</b> 梅雨期、収穫後に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本菌の多くは結果母枝や古い粗皮に付着した分生胞子で越冬し、5月頃から雨によって葉へ飛散し発病する。</li> <li>・梅雨の長引く時に発生が多くなる。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
さび病	<b>生育期</b> 発病初期に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発は6月中旬~7月上旬であるが、梅雨明け後の乾燥期に発病が多くなる。</li> <li>・欧州系品種は強いが、米国系品種、特にデラウェア、巨峰は発病しやすい。</li> </ul>
つる割病	<b>生育期</b> 5~8月の発生期に防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胞子飛散の最も多いのは5月中旬~梅雨期である。</li> <li>・窒素肥料が遅効きし、枝が軟弱、徒長的な場合に発病しやすい。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 開花直前、落花直後に十分防除を行う。 2. 落花後、果実に付着した花冠は除去する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開花前の花穂や成熟期の果実に発病する。また、花冠の離脱が悪いと多発する。</li> <li>・DMI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>・幼果期～果実肥大期以降の農薬散布は汚れや果粉溶脱の恐れがあるので、使用上の注意をよく確認する。</li> </ul>
べと病	<b>休眠期</b> 落葉処理を行う。 <b>生育期（5月～収穫期）</b> 予防散布を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨の多い低温の年は多発しやすい。</li> <li>・本病は欧州系品種に多い。</li> <li>・発病してからでは防除が難しいので予防散布に重点をおく。</li> <li>・リドミルゴールド MZ、アリエッティ C 水和剤は幼果期から袋掛けまでの使用を避ける。</li> <li>・リドミルゴールド MZ は施設栽培の場合開花前までの使用とする。</li> <li>・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
チャノキイロアザミウマ	<b>生育期</b> 開花前～幼果期と袋かけ前に十分防除を行う。 その後の増殖期や発生最盛期にも適宜防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は、幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱の恐れがあるので使用は避ける。</li> </ul>
ブドウトラカミキリ	<b>発芽前（休眠期）</b> 1. 剪定枝を園外に持ち出し処理する。 2. 発芽前の薬剤散布が高い効果を示す。 <b>生育期～収穫後</b> 成虫脱出期または収穫後の若齢幼虫期に防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回の発生で8月中旬～9月上旬に成虫発生が多い。</li> <li>・アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は、幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱の恐れがあるので使用は避ける。</li> </ul>
コウモリガ	<b>6～9月</b> 根元周辺を除草し、敷ワラ等は根元まで敷かないようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫の食入は6月～7月中旬が最も多い。</li> </ul>
コガネムシ類	<b>6～8月</b> 成虫発生時期（新梢伸長期）の忌避と殺虫をねらい防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成虫発生盛期は7月中旬～8月上旬である。</li> </ul>
ハダニ類 ・ フシダニ類 （ブドウハモグリダニ・ブドウサビダニ）	<b>発芽前（休眠期）</b> 越冬ダニを狙って防除を行う。 <b>5～7月</b> 1. 生育期に被害が発生した場合は、初期に防除を行う。 2. ブドウサビダニは葉裏より葉表に寄生するので、発生期防除は葉表に十分散布する。防除適期は、発芽前及び発生初期の7月上旬から中旬である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えそ果病は、ウイルスを保有したブドウハモグリダニによって健全樹へ伝搬されることが確認されている。</li> <li>・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。</li> </ul> ※ハダニ類の防除対策の項参照
コナカイガラムシ類	<b>休眠期</b> 粗皮削りを行う。 <b>生育期</b> 幼虫ふ化期の5～7月に防除を行う。	

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類- 殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						灰星病	黒星病	すす斑病	すす斑病(うめ)	黒粒枝枯病	環紋葉枯病	葉炭疽病	灰色かび病	灰星病(すもも)
1	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	-	○	○	-	-	-	-	-	-
3	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	-	-	○	○	○	-	-
4	ネクスターフロアブル		普	イソピラザム	7	-	○	-	-	-	-	-	-	-
5	パレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	○	-	○	-	-	-	○	○
6	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	○	-	○	-	-	-

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類(うめ、すももを除く)- 殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						環紋葉枯病	黒星病	すす斑病	灰色かび病	灰星病
1	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	-	-	-	-
2	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	-	○	-	-	○
3	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	○

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類(うめを除く)- 殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						灰星病	灰色かび病	黒星病	白紋羽病
1	オーシャインフロアブル		普	オキシポコナゾールフマル酸塩	3	○	-	-	-
2	オーシャイン水和剤		普	オキシポコナゾールフマル酸塩	3	○	○	○	-
3	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	-	○	-
4	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-	○	-
5	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	○

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類(すももを除く)- 殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						かいよう病	灰星病
1	スターナ水和剤		普	オキシロニック酸	31	○	-
2	フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロピン	11	-	○

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類- 殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						ハダニ類	カイガラムシ類	アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ	カメムシ類	ナミハダニ	オウトウハダニ	ケムシ類	ハマキムシ類	シンクイムシ類	クビアカツヤカミキリ	モモヒメヨコバイ
1	アタックオイル		普	マシン油	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-
3	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
5	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-
8	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	ダニオーテフロアブル		普	アシノナピル	33	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
11	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	テツパン液剤	抑制	普	シクラニリプロール	28	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
13	テルスターフロアブル	抑制	劇	ピフェントリン	3A	-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-
14	トランスフォームフロアブル	抑制	普	スルホキサフロル	4C	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ハーベストオイル		普	マシン油	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類(うめ、すももを除く)- 殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ヤクカビアカリツ	ケムシ類
1	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-
2	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプリロール	28	-	○

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類(うめを除く)- 殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						アブラムシ類	ケムシ類	カクビアカリツヤ
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアトキサム	4A	○	-	○
2	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	○	○	○

## 果樹類- 核果類- 小粒核果類(すももを除く)- 殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	アメリカシロヒトリ	ハマキムシ類	シンクイムシ類
1	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	○	○	○

## 果樹類－核果類－小粒核果類－うめ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名・使用目的								
						かいよう病	すす斑病	黒星病	灰色かび病	灰星病	うどんこ病	環紋葉枯病	白紋羽病	傷口のゆ合促進
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	-	○	○	-	-	-	-	-	-
4	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	○	○	-	-	-	-	-	-
5	オーシャイン水和剤		普	オキシポコナゾールフマル酸塩	3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
6	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	○	○	-	○	-	-	-	-
7	カスミン液剤		普	カスガマイシン	24	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	サルファーゾル		普	硫黄	M2	-	-	○	-	-	-	-	-	-
9	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	○	-	-	-	-	-	-
10	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	○	○	○	-	○	○	-	-
11	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	-	○	○	-	-	-	-	-	-
12	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ボスカリド	11、7	-	○	○	○	○	○	○	-	-
13	バッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	-	○
14	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	○	○	○	○	-	-	-	-
16	フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	○	-
17	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	○	-	-	-	○	-
18	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	○	○	○	-	-	-	-	-
19	ペンコゼブフロアブル		普	マンゼブ	M3	○	○	○	-	-	-	-	-	-
20	マイコシールド		普	オキシテトラサイクリン	41	○	-	-	-	-	-	-	-	-
21	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	-	○	-	-	○	-	-

## 果樹類－核果類－小粒核果類－うめ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名									
						アブラムシ類	カメムシ類	カイガラムシ類幼虫	ケムシ類	コスカシバ	カイガラムシ類	ハマキムシ類	クビアカツヤカミキリ	カミキリムシ類	モモヒメヨコバイ
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
2	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメキサム	4A	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-
3	アグロスリン水和剤	抑制	普	シペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アブロードフロアブル		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
6	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
7	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-
8	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-
9	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-
10	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	-	○	-	-	-	○	-	-
11	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○
13	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-
14	ロビンフッド		普	フェンプロパトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-

\*うめにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

## 6-(10) うめ (果樹類、核果類、小粒核果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
黒星病	<b>休眠期 (落葉後～開花前、12～3月)</b> ・伝染源である枝上病斑を剪除し処分する。  <b>生育期 (落花後～収穫前)</b> ・感染が多くなる4月上旬～5月上旬の防除を徹底する。 ・開花以降が多雨の年は多発するので十分防除する。	・病原菌は枝病斑で越冬する。 ・果実での潜伏期間は約30日と長い。 ・オーソサイド水和剤80は、高温時(30℃前後)の散布は葉害が生じることがあるので注意する。 ・DMI剤、QoI剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
かしよう病	<b>休眠期</b> ・越冬病斑を剪除する。 ・無機銅剤を10月上旬から2週間間隔で2回散布すると潜伏越冬枝病斑を少なくできる。ただし、高温期の散布は落葉の危険性があるので注意する。  <b>生育期 (葉芽発芽前、発芽～幼果期)</b> ・発芽から幼果期の防除を徹底する。 ・風当たりを防ぐため、防風ネットや防風垣を設置する。	・病原菌は枝や皮目落葉痕で越冬する。 ・強風雨が感染を助長する。 ・小梅は発生しやすい。 ・同一の抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
灰色かび病	<b>生育期 (落花終期 (8分散り)～葉芽発芽前)</b> ・常発園では落弁終了期に農薬散布する。	・低温で開花時期の遅れる年に発病が多い。 ・進展型は、病斑が拡大し落果する。停止型は、カサブタ状病斑となり、果実は収穫期まで樹上に残存する。
すす斑病	<b>生育期 (3月下旬～6月)</b> ・園内の通風、排水をよくする。	・QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・5～6月に降雨が多い場合や、収穫期の遅い品種や地域で被害が多い。
環紋葉枯病	<b>生育期</b> ・園の通風をよくする。 ・被害葉は伝染源となるので集めて処分する。 ・低温多雨の年には収穫直後～9月に農薬散布する。	・病原菌は落葉で越冬する。 ・6～10月二次感染を繰り返す。 ・ジカルボキシイミド系、QoI剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
白紋羽病	・病患部の除去、薬剤の灌注などの処理は休眠期に行う。	・一度土壌中に病原菌が侵入すると長期間発病の機会がある。 ・予防が最も大切であるため、発病している、疑わしいものは植えない。 ・病原菌の生息している圃場では、植穴に粗大有機物を入れない。 ・樹体に負担のかかる着果過多、強剪定は行わない。
カイガラムシ類	<b>休眠期</b> ・越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。  <b>生育期 (5月上中旬、7月)</b> ・生育期の防除は、幼虫最多寄生期に散布する。	・幼虫発生は、ウメシロカイガラムシは年2～3回(5,7,8,9月)、ナシマルカイガラムシは年3回(5,7,9月)、タマカタカイガラムシは年1回(5月)。 ・カイガラムシ類の寄生した部分には、こややく病が発病しやすい。 ・冬期のマシン油乳剤の散布は効果が高い。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
アブラムシ類	<b>生育期（新葉展開期、4～5月）</b> ・発芽初期、葉が巻く前での初期防除に努める。	・若木や新梢伸長が良い樹で発生が多い。 ・乾燥する年に発生が多くなる。
コスカシバ	<b>休眠期（12～4月）</b> ・食入幼虫の捕殺に努める。 ・幼虫捕殺後の傷口には、癒合促進のため殺菌塗布剤を塗って保護する。  <b>生育期</b> ・フェロモン剤を集団設置する。 ・薬剤散布は秋期防除の効果が高い。 ・薬剤散布は枝幹にも散布する。	・成虫の発生盛期は8～9月である。 ・一度被害を受け樹勢が低下した樹は再被害を受けやすい。
クビアカツヤカミキリ	5月中旬～10月下旬 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。 6月上旬～8月上旬 成虫を発見したら捕殺する。 農薬散布は樹幹部に丁寧に散布する。	・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）前にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。  ※クビアカツヤカミキリの防除対策の項参照
ハダニ類		※ハダニ類の防除対策の項参照
モモヒメヨコバイ	7月中旬～9月下旬 成虫の発生を確認したら登録薬剤による初期防除に努める。	・夏期は増殖のスピードが速いため、発生の早期発見に努める。

## 果樹類－核果類－小粒核果類－すもも－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						黒斑病	灰星病	炭疽病	ふくろみ病	黒星病
1	ICボルドー412		普	銅	M1	○	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-
3	アグリマイシン-100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	-	-	-	-
4	アグレプト水和剤		普	ストレプトマイシン	25	○	-	-	-	-
5	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	○	-	-	-
6	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	-	-	-
7	ストロビードライフフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	○	-	-
8	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	-	-	○	○	-
9	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	○	-	-	-
10	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	-	-	○	○	-
11	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ポスカリド	11、7	-	○	-	○	○
12	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	-	-	-	-
13	フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロビン	11	-	○	○	-	-
14	ベルクートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	○	-	-	-
15	マイコシールド		普	オキシテトラサイクリン	41	○	-	-	-	-
16	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	○	-	-	-

## 果樹類—核果類—小粒核果類—すもも—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名								
						ア ブ ラ ム シ 類	シ ン ク イ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類 幼 虫	コ ス カ シ バ	ハ ダ ニ 類	カ メ ム シ 類	モ モ ノ ゴ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ク ビ ア カ ツ ヤ カ ミ キ リ	
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	-	-	-	-	-	-	-	-	○
2	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	-	○	-	-	-	○	-	-	○
3	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アプロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-
6	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	-
7	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	○	-	-	-	-
8	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニプロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	-
9	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-
10	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	-	-	-	-	○	-	-	○
11	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	○	-	-	-	-	-	-	-
12	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	○	○	-	-	-	-	○	-	-
13	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	○	-	-	-	-	-
14	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	○

\* すももにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；（ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く）。

## 6-(11) すもも（果樹類、核果類、小粒核果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒斑病	<b>休眠期</b> 被害枝は剪除する。 <b>生育期（発芽前、発芽～幼果期、9月下旬～10月）</b> 1. 風当たりを防ぐため、防風ネット等を設置する。 2. ほ場の排水性を良くする。 3. 収穫後の防除を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モモのせん孔細菌病と同じ細菌で発生する。</li> <li>・抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>・前年枝の病斑組織の切除は効果が高い。</li> <li>・発生しやすい園では、発芽前、収穫後の重点防除を行う。</li> </ul>
ふくろみ病	<b>休眠期（発芽前、12月～2月中旬）</b> 薬剤の散布時期が遅れると効果が低下するため注意する。 <b>生育期（発芽後）</b> 1. 被害枝は剪除し、被害果は除去する。 2. 発芽前の薬剤散布で防除効果が高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソルダムは発病しやすい。</li> <li>・発芽期から開花期にかけて、雨の多い年に発病しやすい。</li> </ul>
灰星病	<b>休眠期</b> 1. 密植の解消等、薬剤到達性を高める。 2. せん定時に枯死枝を剪除する。 <b>生育期（開花直前～収穫期）</b> 1. 花腐れの多い年は防除を十分に行う。 2. 果実の腐敗病斑上に形成された分生子が、二次伝染を起こすため、発生果の処分を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開花期、成熟期の多雨は被害を助長し、果実の感受性は成熟期に近づくにつれて高くなる。</li> <li>・ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
コスカシバ	<b>休眠期（12～4月）</b> 1. 食入幼虫の捕殺に努める。 2. 幼虫捕殺後の傷口には、癒合促進のため殺菌塗布剤を塗って保護する。 <b>生育期</b> 1. 樹勢が衰弱すると被害を受けやすくなる。 2. 薬剤散布は秋期防除の効果が高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成虫は体長15mm、体と複眼は紫黒色、翅は透明で翅脈と外縁部は黒い。尾端には房状のりん毛がついている。</li> <li>・越冬は幼虫で行い、年一回発生で、5～10月に発生するが、発生盛期は8～9月である。</li> <li>・モモ、ウメ、スモモの被害樹からも飛来する。</li> </ul>
ハダニ類	<b>生育期</b> ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、気温の上昇に伴い増殖が速くなるので、発生初期からの防除を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。</li> </ul> ※ハダニ類の防除対策の項参照
シンクイムシ類	<b>生育期</b> 1. 心折れ被害枝を摘み取り処分する。 2. 被害果を処分する。 3. 幼虫が果実へ食入してからは被害防止は困難なため、殺卵やふ化直後の幼虫の食入防止を重点にした防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモモヒメシンクイの第一世代による被害は5月中下旬～6月上旬頃から見られる。食害が進むと果実は落果する。越冬は幼虫で、土中に繭をつくる。</li> <li>・ナシヒメシンクイは、老熟幼虫で粗皮の割れ目や、土中などで繭をつくり越冬する。</li> </ul>

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
クビアカツヤカミキリ	<p><b>4月～10月</b> 農薬散布は樹幹部にも丁寧に散布する。</p> <p><b>5月中旬～10月下旬</b> 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。</p> <p><b>6月上旬～8月上旬</b> 成虫を発見したら捕殺する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。</li> <li>・収穫終了後も定期的に園内を見回り、幼虫の食入箇所がないか確認する。受粉樹も本圃と同様に防除と見回りを徹底する。</li> </ul> <p>※クビアカツヤカミキリの防除対策の項参照</p>

## 果樹類－かき－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日: 2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						うどんこ病	すす点病	黒点病	炭疽病	落葉病	灰色かび病	黒星病
1	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	○	○	○	-	-
2	オーソサイド水和剤80		普	キャブタン	M4	-	○	-	○	○	-	-
3	オキシンドー水和剤80		普	有機銅	M1	○	-	-	○	○	-	-
4	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	-	-	○	○	○	-
5	キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	-	-	○	○	-	-
6	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	-	-	-	○	○	○	-
7	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	-	-	○	○	-	-
8	ストライド顆粒水和剤		普	フルオルイミド	M11	-	○	-	○	○	-	-
9	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	-	-	○	○	○	-
10	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	-	-	○	○	-	-
11	ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	○	-	-	○	○	-	-
12	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	-	○	○	-	-
13	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	○	-	-	-	-
14	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	-	-	○	○	-	-
15	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ボスカリド	11、7	○	-	-	○	○	○	-
16	パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	○	-	-	○	○	-	-
17	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-	-	○	○	○	-
18	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	○	○	○	-
19	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	-	○	○	○	○
20	ペンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	○	○	-	-
21	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	○	-	○	○	-	-
22	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	-	-	-	-	-	○

## 果樹類—かき—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日: 2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名													
						アザミウマ類	カキノヘタムシガ	カメムシ類	コナカイガラムシ類	チャノキイロアザミウマ	カキクダアザミウマ	カイガラムシ類幼虫	イラガ類	カイガラムシ類	カキノヒメヨコバイ	フジコナカイガラムシ	カキノキマダラメイガ	カキホソガ	イラガ
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオソ乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-
8	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-
9	ガットサイドS		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
10	キラップフロアブル		普	エチプロール	2B	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
12	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
13	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニプロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
15	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-
17	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-
18	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
19	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	テツパン液剤	抑制	普	シクラニプロール	28	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
21	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
22	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○
23	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
24	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
25	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-

\* かきにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

## 6-(12) かき（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
炭疽病	<b>休眠期</b> 1. 被害落葉は園外に持ち出して処分する。 2. 罹病枝を切り取り適切に処分する。 <b>生育期</b> 1. 適切な肥培管理と新梢管理を行い、風通しに留意する。 2. 防除時期は5月～7月（梅雨明けまで）、8月中旬～9月中旬である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝染源は罹病枝で越冬し、5～6月の降雨が新梢や幼果の発病を助長する。</li> <li>・果実への被害は、着色の始まる8月下旬～9月が発生盛期となる。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系、DMI剤、QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
落葉病 （円星落葉病、角斑落葉病）	<b>休眠期</b> 被害落葉は集めて園外に持ち出して処分する。 <b>生育期</b> 防除時期は、主要感染期である5月～7月（梅雨明けまで）である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生期 円星落葉病は8月中旬ごろから発病し、9月中下旬に急増する。 角斑落葉病は7月頃から落葉期まで発病する。 円星落葉病とは異なり、病斑上で孢子を形成し二次伝染を繰り返す。</li> <li>・角斑落葉病は樹勢の弱い樹や老木に発病しやすい。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系、DMI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
カキノヘタムシガ（カキミガ）	<b>休眠期</b> 粗皮削りを行う。 <b>生育期</b> 防除時期は幼虫が芽の先端を食害している時期（5月下旬～6月中旬、7月中旬～8月中旬）である。	
カキクダアザミウマ	<b>休眠期</b> 粗皮削りを行う。 <b>生育期</b> 防除時期は展葉期～幼果期である。	
カメムシ類	<b>生育期</b> 1. 発生状況は年次差が大きいので、発生予察情報を参考に薬剤防除を行う。 2. 集合フェロモンにより同種を誘引する習性があるため、園への飛来を確認したら早めの防除を行う。 3. 成虫が日没直後に果樹園に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。7月頃から第1世代成虫が出現し、県内では年1回の発生である。</li> <li>・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶がカメムシの発生量や果樹の被害量に大きな影響を与える。</li> </ul> ※果樹カメムシ類の防除対策の項参照

## 果樹類－くり－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						胴枯病	実炭疽病
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○
2	トップジンMペースト		普	チオファネートメチル	1	○	-
3	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	○
4	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○

## 果樹類－くり－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						クリタマバチ	クリシギゾウムシ	アブラムシ類	クリイガアブラムシ	カツラマルカイガラムシ若齢幼虫	モモノゴマダラノメイガ	キクイムシ類	ネスジキノカワガ
1	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-
2	アデオオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-
3	アドマイヤー水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	○	-	-	-	-	-
4	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	-	-	-	○	○	○	-	-
5	ガットサイドS		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	○	-
6	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	○	-	-
7	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	-	-	-	-	-	○	-	○
8	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	-	-	-	○	-	○
9	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	-	-	○	-	-
10	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	○	○	-	○	-	-	-	-

\* くりにおけるアドマイヤー水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；（ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く）。

## 6-(13) くり (果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
実炭疽病	<b>休眠期</b> 枯れ枝に病原菌が潜伏して伝染源となるため、間伐と剪定により通風、採光を良好にして枯れ枝防止を図る。 <b>開花期～裂果前（果実肥大期）</b> 穂果肥大期から成熟期（7～8月）に十分防除を行う。	・品種によって発病程度が異なるので、罹病性品種を更新する。
胴枯病	1. 早期発見につとめ、被害部は削り取り、切り口に塗布剤を塗布する。 2. 被害枯死樹、被害枝は処分する。 3. 適切な施肥、剪定により樹勢を強く維持する。	・病患部の早期発見、早期除去に努め、園内環境を良好に保つ。 ・樹勢の健全維持に努める。
モモノゴマダ ラノメイガ	<b>生育期</b> 1. 発生時期である8月～9月に薬剤散布を行う。 2. バンド誘殺の実施 8月下旬に主幹部に紙又は布を巻き付けて越冬させ、冬季に外して処分する。	・第2世代（8月）の防除を重点に行う。 ・スミチオン水和剤40は新梢伸長期、極早生品種や樹勢の弱い樹には使用しない。
クスサン	<b>休眠期</b> 卵塊を集めて処分する。 <b>生育期</b> 5月にふ化幼虫の早期発見に努め、見つけしだい捕殺する。	・樹幹、太枝の分岐部に産卵する。
クリタマバチ	1. 抵抗性品種を栽培する。 2. 適切な施肥、剪定により樹勢を強く維持する。 3. 弱小枝の切除に努める <b>生育期</b> 羽化初期の6月下旬から7月に十分防除を行う。	・スミチオン水和剤40は新梢伸長期、極早生品種や樹勢の弱い樹には使用しない。
クリイガ アブラムシ	1. 雌花に成虫が定着して産卵するため、6月下旬までに薬剤散布を行う。 2. 空イガや落果した被害果は早めに埋没するか園外に持ち出す。	・密植園、通風の悪い園は発生が多い。 ・未熟の穂果に寄生すると未熟果で裂開（若ハゼ）の原因となる。
クリシギゾウムシ	1. 晩生種では収穫期には幼虫が大きく発育しているため、収穫直前の8月下旬から9月に十分防除を行う。 2. 被害果は早めに埋没するか園外に持ち出す。 3. 11月にロータリー耕を行うと密度低下につながる。	・成虫は8月から発生し、9月が最盛期となる。

## 果樹類—核果類—おうとう—殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						灰星病	褐色せん孔病	樹脂細菌病	せん孔病	炭疽病	幼果菌核病	白紋羽病	黒斑病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-	-	-
3	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	-	-	○	-	-	-
4	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-
5	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	-	-	-	-	○	-	-
6	オーシャインフロアブル		普	オキシボコナゾール フマル酸塩	3	○	○	-	-	-	○	-	-
7	オーシャイン水和剤		普	オキシボコナゾール フマル酸塩	3	○	○	-	-	-	○	-	-
8	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	-	-	○	-	-	-
9	オキシラン水和剤		普	1. キャプタン 2. 有機銅	M4、M1	-	-	-	○	-	-	-	-
10	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	○	-	-	○	-	-	○
11	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-
12	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	-
13	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	-	○	-	-	-	-	-	-
14	ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	-	-	-	○	-	-	-	-
15	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	○	-	○	-	-
16	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	-
17	ナリアWDG		普	1.ピラクrostロビン 2.ボスカリド	11、7	○	○	-	-	○	○	-	○
18	パスワード顆粒水和剤		普	フェンヘキサミド	17	○	-	-	-	-	○	-	-
19	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	-	-	-	○	-	○
20	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	-	○	○	-	-
21	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	-	○	-
22	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	-	-	-	-	-	-	-
23	ロブラール500アクア		普	イブロジオン	2	○	-	-	-	-	-	-	-

## 果樹類－核果類－おうとう－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名											
						ウメシロカイガラムシ	シヨウジョウバエ	カイガラムシ類幼虫	ケムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	オウトウシヨウジョウバエ	コスカシバ	シヨウジョウバエ類	カイガラムシ類	カメムシ類	アブラムシ類
1	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○
2	アタックオイル		普	マシン油	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオンフロアブル	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アプロードフロアブル		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
6	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニリプロール	28	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-
7	エコマイト顆粒水和剤		普	スピロジクロフェン	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
8	オマイト水和剤		普	BPPS	12C	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
9	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
10	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-
11	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクテン	6	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
12	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-
13	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
14	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
15	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
16	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-
17	ダニオーテフロアブル		普	アシノナピル	33	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
18	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
19	ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
20	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
21	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
22	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
23	テッパン液剤	抑制	普	シクラニリプロール	28	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	○	○

## 果樹類—核果類—おうとう—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名												
						ウメシロカイガラムシ	シヨウジヨウバエ	カイガラムシ類 幼虫	ケムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	オウトウシヨウジヨウバエ	コスカシバ	シヨウジヨウバエ類	カイガラムシ類	カメムシ類	アブラムシ類	クビアカツヤカミキリ
24	テルスターフロアブル	抑制	劇	ビフェントリン	3A	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-
25	ニッソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
26	ハーベストオイル		普	マシン油	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
27	バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
28	フェニックスフロアブル		普	フルベンジアミド	28	-	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-
29	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
30	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	○	
31	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
32	ヨーバルフロアブル	抑制	普	テトラニプロール	28	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-

6-(14) おうとう（果樹類、核果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
灰星病	<b>休眠期</b> 全面を耕うんして越冬源をすき込むとともに、地表面の乾燥を図る。 <b>開花直前～収穫期</b> 被害果は見つけ次第、土中に埋める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンゾイミダゾール系、ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> <li>・開花期や収穫期に降雨が多いと多発する。</li> </ul>
せん孔病	<b>発芽前</b> 被害葉が伝染源になるので、発病園では発芽前に落葉の処分を行う。 <b>生育期～落葉期</b> 初期防除に努め、収穫後には落葉期まで防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉のみに発病する。</li> <li>・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
幼果菌核病	<b>4～5月</b> 発病は新葉、幼果にみられ、開花期前後が防除時期となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温が続き、発芽から開花までの期間が長くなるような気象条件下では、開花前の防除回数を増やす。</li> </ul>
炭疽病	<b>休眠期</b> 伝染源となる枯死した花束状短果枝や不発芽を除去する。 <b>生育期</b> 開花期から成熟期にかけた防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病は果実、葉、芽でみられる。</li> <li>・分生子は降雨時に飛散し、開花期及び収穫時期（6月）に多い。</li> <li>・DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。</li> </ul>
樹脂細菌病	<b>休眠期</b> 感染時期の冬季に枝幹（樹脂の漏出部）に十分散布する。 <b>生育期</b> 病斑部を削り取り、殺菌塗布剤を塗って保護する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に冬季に感染する。</li> <li>・風当たりの強い園や強樹勢の樹で発生が多い。</li> <li>・病気の進行にともない、病斑より上の枝が枯死する。</li> </ul>
コスカシバ	<b>発芽後</b> 食入幼虫の捕殺に努める。 <b>生育期</b> 5～9月の他害虫防除時に樹幹部にも丁寧に散布する。 <b>収穫後</b> 秋期に樹幹部の低い部分に十分に薬剤散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫捕殺後の傷口には、癒合促進のため殺菌塗布剤を塗って保護する。</li> <li>・成虫の発生盛期は8～9月である。</li> <li>・樹勢が衰弱すると被害を受けやすくなる。</li> <li>・薬剤散布は秋期防除の効果が高い。</li> </ul>
ハダニ類	<b>5～9月</b> ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。</li> </ul> <p>※ハダニ類の防除対策の項参照</p>
ショウジョウバエ類	<b>6～7月</b> 適期収穫に努め、被害果やウルミ果等の取り残し果実は直ちに処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オウトウ果実への産卵は、完熟直前から収穫期に多く、晩生種で被害が多い。</li> <li>・果肉内で産卵後1～3日でふ化し、果肉を食害後脱出して蛹になる。</li> </ul>
クビアカツヤカミキリ	<b>5月中旬～10月下旬</b> 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。 <b>6月上旬～8月上旬</b> 成虫を発見したら捕殺する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）前にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。</li> </ul> <p>※クビアカツヤカミキリの防除対策の項参照</p>

## 果樹類－キウイフルーツ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						か い よ う 病	花 腐 細 菌 病	果 実 軟 腐 病	灰 色 か び 病	貯 蔵 病 害 ( 灰 色 か び 病 )	白 紋 羽 病	す ず 斑 病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
2	アグリマイシン-100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	○	-	-	-	-	-
3	アグレプト水和剤		普	ストレプトマイシン	25	○	○	-	-	-	-	-
4	アリエッティ水和剤		普	ホセチル	P7	-	-	○	-	-	-	-
5	カスミンボルドー		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	○	○	-	-	-	-	-
6	カスミン液剤		普	カスガマイシン	24	○	○	-	-	-	-	-
7	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	-	○	○	-	○
8	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	○	-	-	-	○
9	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	-	-	-	-
10	パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	-	-	○	-	-	-	-
11	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	-	-	○	-	-	○
12	フロンスайдSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	○	-	○	-
13	ベルクート水和剤		普	イミノクタジン	M7	-	-	○	○	○	-	-
14	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	○	-	-	-	○
15	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	○	○	-	-

## 果樹類－キウイフルーツ(苗木)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						白 紋 羽 病
1	フロンスайдSC		普	フルアジナム	29	○

## 果樹類－キウイフルーツ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						キイロマイコガ	カメムシ類	キウイヒメヨコバイ	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	ケムシ類
1	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	○	○	○	-	-	-
2	アディオオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-
3	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	-	○	-	-	-	-
4	アブロードエースフロアブル		普	1.フェンピロキシメート 2.ブプロフェジン	21A、16	-	-	○	○	-	-
5	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	○	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	劇	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	-	-
7	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	○	-	-	-
8	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	-	○	-	-
9	スタークル顆粒水溶剤	抑制	劇	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	-	-
10	テツパン液剤	抑制	普	シクラニリプロール	28	-	-	-	-	-	○
11	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	○	-	-
12	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	○	-	-	-
13	フェニックスフロアブル		普	フルベンジアミド	28	○	-	-	-	-	○
14	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	○	-	-	-	-	-
15	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	○	○	-	-

\* キウイフルーツにおけるアドマイヤーフロアブルの使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

## 6-(15) キウイフルーツ（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
果実軟腐病	<b>休眠期</b> 枯枝、果梗を除去し処分する。 <b>生育期（幼果期まで、幼果期～果実肥大期）</b> 過繁茂を避け、摘心や誘引で棚面を明るく管理する。	・ベンゾイミダゾール系、ジカルボキシイミド系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
花腐細菌病	<b>休眠期～叢生期（新梢長約10cm）</b> 開花一ヶ月前に主幹部に幅5mm程度の環状剥皮を行うと発病が少なくなる。 <b>生育期（落花期まで、4～7月）</b> 1. 過繁茂を避け、摘心や誘引で棚面を明るく管理する。 2. 肥料の過用を避け、樹勢の安定を図る。	・抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・カスミンボルドーを発芽期以降に散布する際は、葉害軽減のためクレフノンを加用する。
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 園内の通風、排水を良くする。 2. 防除時期は落花期（5月下旬～6月上旬）と収穫前である。	・ロブルール水和剤散布の際には、展着剤を使用し、果実全体に薬液がかかるようにする。 ・貯蔵中の発病をふせぐため、傷果やぬれ果は貯蔵しない。 ・貯蔵中の腐敗は被害が大きくなるので、貯蔵中に発病した果実は早急に除去する。
かいはう病	<b>休眠期</b> 風などによる傷から感染しやすいので、防風垣や防風ネットを設置し、剪定後の切り口には癒合促進剤を塗布する。 <b>生育期</b> 防除時期は発芽前、4～7月、収穫後～落葉前である。	・発病樹を切ったノコギリ、剪定鋏から感染する恐れがあるので、用具の消毒を行う。 ・抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・カスミン液剤を樹幹注入する場合は、葉害を生じる場合があるので使用上の注意をよく見た上で行う。 ・カスミンボルドーを発芽期以降に散布する際は、葉害軽減のためクレフノンを加用する。
炭疽病	<b>休眠期</b> 風などによる傷から感染しやすいので、防風垣や防風ネットを設置する。 <b>生育期</b> 発病した葉や枯枝は伝染源となるので、集めて処分する。	・6月頃の成葉に発病し、大型の病斑となり落葉する。
枝枯病	夏期の強剪定、着果過多、樹勢低下樹に発生が多いので、適正な樹勢を維持する。	・日焼けや降雹などで生じた傷口や、剪定後の切り口から感染しやすいため、剪定後の切り口には癒合促進剤を塗布する。原因菌として、果実軟腐病と同じホモプシス菌が報告されている。
カイガラムシ類	<b>休眠期（12～1月）</b> 1. 寄生された枝は、剪定時に取り除く。 2. 発芽前に登録のある殺虫剤を散布する。 <b>生育期（6～7月）</b> 幼虫の発生を確認し、登録のある殺虫剤を散布する。	・生育期の薬剤防除は、幼虫が介殻（皮膜物質）で覆われると効果が低いため、介殻を形成する前に行う。

## 6-(16) ブルーベリー

(果樹類、ベリー類等の小粒果実類、ベリー類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
灰色かび病	<b>生育期</b> 1. 罹病花や罹病果実が伝染源となるため、早期に摘み取り、処分する。 2. 開花期前に適用薬剤を使用する。	・花や幼果に感染し、花腐れ症状や果実の褐変を生じる。開花期前後の天候不順により発生が助長される。
根腐疫病	<b>生育期</b> 1. 感染した苗を園地へ持ち込まない。 2. 土壌水分が高い条件で発生が助長されるため、排水不良園では排水対策を行う。 3. 鉢栽培では、地面への直置きを避ける。 4. 適用薬剤を使用する。	・葉が黄化または赤褐変し、新梢の伸長や根張りが不良となり、症状が進行すると枯死する。 ・梅雨や秋雨の時期に立枯れ症状が急速に進展する。
オウトウシヨウジョウバエ	<b>生育期</b> 1. 適熟果は全て収穫し、取り残さない。 2. 落下果実や腐敗果実は、園外へ持ち出し処理する。 3. 被害の多発する園では、園内密度が高くなる前に、7～10日間隔で適用薬剤を使用する。	・雌成虫は熟した果実へ産卵し、産卵後1～3日で白いウジ状の幼虫が孵化する。 ・被害果や取り残した果実、落下果実がある場合、それが増殖源となり園内密度が高くなる。
カイガラムシ類	<b>休眠期</b> 1. 寄生された枝は剪定時に取り除く。 2. 発芽前に、適用薬剤を使用する。	・主に枝や新梢に寄生し、樹液を吸汁する。被害が拡大すると、樹勢低下や枝の枯死の原因となる。
ブルーベリートアマバエ	<b>生育期</b> 1. 被害苗を栽培ほ場へ持ち込まない。 2. 蛹は土中で越冬するため、被害ほ場の土を栽培ほ場へ持ち込まない。 3. 寄生部位を摘み取り、袋に入れ密封し死滅させる。 4. 新梢伸長期に適用薬剤を使用する。	・幼虫が新梢先端の未展開葉を食害する。 ・被害を受けた未展開葉は黒変後に枯死し、側芽が伸長する。 ・幼虫は白～黄色のウジ状で、体長約2mm程度であり、蛹は土中で越冬する。 ・施設栽培では被害が大きくなりやすい。 ・新梢伸長期(4月から9月頃まで)に発生が見られるが、年次やほ場により発生のピークは異なる。

## 果樹類-ベリー類等の小粒果実類-ベリー類(ブルーベリーを除く)-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						斑点病
1	オキシラン水和剤		普	1. キャブタン 2. 有機銅	M4, M1	○

## 果樹類-ベリー類等の小粒果実類-ベリー類-ブルーベリー-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						灰色かび病	斑点病	すす点病	うどんこ病	根腐疫病
1	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	-	-	-	-
2	エコショット		-	バチルスズブチリス	BM2	○	-	-	-	-
3	オーソサイド水和剤80		普	キャブタン	M4	○	○	○	-	-
4	オキシラン水和剤		普	1. キャブタン 2. 有機銅	M4, M1	-	○	-	-	-
5	カリグリーン		普	炭酸水素カリウム	NC	○	-	-	○	-
6	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	-	-	-
7	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-	-	-	-
8	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	-	-
9	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	○

## 果樹類-ベリー類等の小粒果実類-ベリー類-ブルーベリー-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						オウトウシヨウジョウバエ	イラガ類	コガネムシ類幼虫	アブラムシ類	ケムシ類	ハマキムシ類	ブルーベリータマバエ
1	アディオフロアブル	抑制	普	ベルメリン	3A	○	-	-	-	-	-	-
2	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプロール	28	○	-	-	○	○	-	-
3	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	○	○	-	-	-	-	-
4	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	○	-	-	-	-
5	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	-	-	○	○	-	-
6	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	○	-	-	-	-	○	○
7	テツパン液剤	抑制	普	シクラニプロール	28	○	-	-	-	-	○	-
8	デルフィン顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	○	-	-	-	-	-
9	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	-	○	-	-
10	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-

## 果樹類ーいちじくー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						株枯病	疫病	さび病	そうか病	黒葉枯病	黒かび病	白紋羽病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-	-
3	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	-	○	○	○	○	-	-
4	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	-	-	○	-	-	-	-
5	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-
6	キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	-	-	-	○	-	-	-
7	コサイド3000		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-	-
8	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	○	○	-	○	○	-
9	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	-	-	-	○	-	-	-
10	トップジンMオイルペースト		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	-	-	-	-
11	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	○	○	○	-
12	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	○	○	-	-	-
13	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	-	○
14	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	-	-	-	-	-
15	ライメイフロアブル		普	アミスルブロム	21	-	○	-	-	-	-	-
16	ラリー水和剤		普	ミクロブタニル	3	-	-	○	-	-	-	-
17	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	-	○	-	-	-	-	-
18	レーバスフロアブル		普	マンジプロバミド	40	-	○	-	-	-	-	-
19	ロブラール500アクア		普	イプロジオン	2	-	-	-	-	-	○	-

## 果樹類—いちじく—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。  
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名												
						アブラムシ類	シヨウジョウバエ類	ハダニ類	アザミウマ類	イチジクヒトリモドキ	カイガラムシ類	カミキリムシ類	カンザワハダニ	ヒラズハナアザミウマ	イチジクモンサビダニ	ネコブセンチュウ	キボシカミキリ	クワカミキリ
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アデオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アプロードエースフロアブル		普	1.フェンピロキシメート 2.プロプロフェジン	21A、16	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニリプロール	28	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	ガットサイドS		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
8	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
9	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	ダニサラパフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ダニトロンフロアブル		普	フェンピロキシメート	21A	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
16	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
17	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	テツパン液剤	抑制	普	シクラニリプロール	28	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	ニツソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
21	バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
24	園芸用キンチョールE		普	ペルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○

## 6-(17) いちじく（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
株 枯 病	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保菌した挿し穂や苗木が主要な伝染源となるので、挿し穂の採種や苗木の育成は未発病地で行う。 また、抵抗性台木を活用する。</li> <li>2. 発病株は早期に園地から持ち出し処分する。</li> <li>3. 土壌感染を防ぐために、発病樹周辺の健全樹に対して、登録殺菌剤を感染時期の5～10月に毎月1回株元灌注する。ただし、罹病樹には効果がない。</li> <li>4. 発病園地で改植する場合は、汚染表土を取り除き無病土を客土するか、土壌消毒を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地温25～30℃で発病が多い。</li> <li>・落葉などの症状は高温乾燥時に多い。</li> <li>・農薬有効成分の総使用回数に注意する。</li> <li>・オンリーワンフロアブル、ICボルドー66Dは、葉害の恐れがあるため定植1年目までの幼木には使用しない。</li> <li>・株枯病菌は地表から地下15cmまでに多く、罹病樹の株元でも地下30cm程度までの深さに分布する。</li> </ul>
疫 病	<b>生育期</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 6月中旬～7月上旬、8月下旬～9月上旬頃に降雨程度を考慮して登録薬剤を散布する。特に降雨後の散布が重要である。</li> <li>2. 発病果は伝染源となるため、園内に放置せず持ち出して処分する。</li> <li>3. 土壌から水滴の跳ね返りによる伝染を防ぐため、マルチ資材や敷きわらを行う。</li> <li>4. 排水不良園では排水溝を設けて排水する。</li> <li>5. 密植園では間伐や縮伐によって、園内湿度や採光条件を改善する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨期間中は新梢や葉に発生し、苗木や幼木で激発した場合は枯死することもある。</li> <li>・収穫期に20～30℃の温度条件と多湿条件が重なると発生が助長される。</li> <li>・強樹勢樹では果実の開口部が裂果しやすく、発生が多くなる。</li> <li>・樹井ドーフインで発病しやすい。</li> </ul>
さ び 病	<b>休眠期</b> 被害葉は翌年の伝染源となるので集めて処分する。 <b>生育期</b> 発病が認められたら登録薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病適温は25～30℃で、風によって孢子が飛散する。</li> </ul>
カミキリムシ類（キボシカミキリ・クワカミキリ）	<b>休眠期</b> 塗布殺虫剤を塗布する。 <b>生育期</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成虫は見つけ次第捕殺し、登録薬剤を散布する。</li> <li>2. 幼虫の食入孔が認められた場合は、食入孔から針金を差し込んで刺殺するか、噴射剤のノズルを差し込み、薬剤が食入孔から逆流してくるまで噴射する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キボシカミキリは主に主幹・主枝に産卵する。</li> <li>・クワカミキリは主に新梢基部に産卵し、しばしば産卵部位から折損する。</li> <li>・樹勢の低下した樹や、日焼け・凍害を受けた樹は加害されやすい。</li> </ul>
アザミウマ類	<b>生育期</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 6月中旬～7月中旬に登録薬剤を散布する。</li> <li>2. 成虫侵入前の6月上旬までに光反射シートを設置する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外観からは加害が分からず、防除が難しい害虫である。</li> <li>・3月下旬から各種の雑草、花などで繁殖する。</li> <li>・果頂部が開口する6月中旬以降に侵入する。</li> <li>・園地周辺及び園地内の雑草は定期的に除草・除去し、アザミウマ類の侵入を抑える。</li> </ul>